

## 100年後世界に誇れる復興を



社団法人 全国建設業協会  
会長 浅沼 健一

昨年発生した東日本大震災によって、岩手県をはじめとする東北地方は、多くの犠牲者を出すとともに未曾有の被害を受けました。震災で尊い命を亡くされた方や罹災された方、そして一年が過ぎた現在でも避難所生活を余儀なくされている多くの方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

貴会および貴会員企業においては、発生から現在にいたるまで、震災対応に多大なる貢献をされました。私も震災直後に現地に入りましたが、身内を亡くされた方や、自宅が流され避難所から通っている建設業の方々が、瓦れきの撤去や道路の啓開作業にあたっている姿を目の当たりにして、頭が下がる思いとともに、そのような仲間がいることに大きな誇りを感じました。心より感謝と敬意を表します。

日本はこれまでに何度もこのような自然災害から立ち直って来ましたが、その復興活動の中心には、常に建設業の先輩たちの存在がありました。今回の復興についても、貴会および我々建設業が中心となって、国民が夢を持てる、被災者の方々が希望を持てる、そして100年後の世界に誇れるような復興を果たしていかなければならないと考えています。

現在、日本列島は再び地震の活動期に入ったといわれております。今後は日本のどの地域においても、今回と同規模の地震や津波が発生する可能性があることを認識し、備えをしなければなりません。また同時に、防災減災対策や計画的継続的な社会資本整備の重要性が再認識された今、我々建設企業はどのような厳しい状況であっても、国民の安全・安心な暮らしを守り、地域の経済を支え、地域の雇用を確保するという従来からの社会的使命も果たし続けなければなりません。

当記録誌『復興への道 東日本大震災からの復旧記録』は、震災発生からの建設業の活動を後世に伝えていくためにも、震災で得た教訓を今後最大限に活かすためにも、大変貴重な資料であります。また、防災意識の確立や災害に強い国土づくりについての提言も多く、建設業のみならず日本社会全体にとって有効な資料となると思います。全建としても提言内容を深く受け止め、全国へ展開していかなければならないと認識しております。

最後になりますが、復興にあたり当記録誌の企画・発刊にご尽力なされた宇部会長をはじめ、関係各位の皆様、復興に従事している会員企業の皆様に深く感謝申し上げます。発刊へのご挨拶とさせていただきます。